

シンポジウム

# 「子宮頸がんワクチン」問題を考える

— 海外からの報告を踏まえて —

2015年11月23日(祝) 13:30~17:30 (13:00 開場)

東京大学鉄門記念講堂 (地下鉄「本郷三丁目」徒歩10分、「東大前」徒歩15分)

同時通訳付・事前申込不要・資料代 500 円

「子宮頸がんワクチン」(HPVワクチン) 接種後の被害の発生は、日本だけではなく、日本および海外の被害者から被害実態の報告を受けるとともに、デンマークと日本でいち早く多くの被害者の診察に当たり、研究の最先端にいる医師の方々をお招きして、「子宮頸がんワクチン」問題の本質に迫ります。



## 第1部 基調講演

Louise Brinth (Frederiksberg 病院医師)

西岡 久寿樹 (東京医科大学医学総合研究所所長)

横田 俊平 (横浜市立大学名誉教授)



## 第2部 被害実態

全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会

海外の被害者 (ビデオレター)



## 第3部 パネルディスカッション

パネリスト Louise Brinth 西岡久寿樹 横田俊平 被害者

コーディネーター 隈本邦彦 水口真寿美

主催 薬害オンブズパーソン会議  
全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会  
国民の医薬シンポジウム実行委員会

問合先 薬害オンブズパーソン会議事務局 TEL: 03-3350-0607

東京大学鉄門記念講堂:

東大赤門入り、最初の右手に見える建物を過ぎたら右折、突当り建物左隣のビルの14階

# シンポジウム 「子宮頸がんワクチン」問題を考える

— 海外からの報告を踏まえて —

「子宮頸がんワクチン」(HPVワクチン)は、子宮頸がんの予防を目的として開発され、日本では、2009年以降、サーバリックス(グラクソ・スミスクライン社)、ガーダシル(MSD社)が承認され、2010年11月から公費助成、2013年4月に定期接種化が行われましたが、深刻な副反応が相次ぎ、2013年6月、接種の積極的勧奨を中止する旨の通知が出されて現在に至っています。

ハンマーで殴られるような激しい頭痛、関節や全身の痛み、不随意運動、突然の脱力、睡眠障害、知的障害など、多様な副反応被害が生じ、高次脳機能障害のために、母が傍にいるのに「お母さんを探している」と訴える被害者もいます。

被害は日本だけではなく、世界に広がっていることも、次第に明らかになっています。

シンポジウム第1部では、このワクチンの被害者の診療と研究にいち早く着手されてきた専門家をお招きして講演をお願いしています。

Louise Brinth 医師(Frederiksberg病院)は、デンマークで、過去4年間に200名以上の被害者を診察し、診察結果を踏まえた研究に精力的に取り組んでこられた方です。

西岡久寿樹教授(東京医科大学医学総合研究所所長)、横田俊平名誉教授(横浜市立大学)は、日本でいち早く調査チームを立ち上げ、多くの被害者の診療と病態の解明等に関する研究に当たるとともに、副作用の調査のあり方や治療、研究体制に関する問題などについても、積極的に発言をされています。

第2部では、日本の被害者からの報告や海外の被害者からのビデオレターの紹介を予定しています。

第3部のパネルディスカッションでは、本問題の本質および被害救済と再発防止のために今後何をすべきかについて、会場の皆さんとともに、理解を深めていきたいと思いをします。

是非、お誘い合わせのうえ、ご参加ください！